ISSN 2189-1516

薬のチェック

No.87
Vol. 20
Jan. 2020

2020 年 1 月号（No87）の記事要旨と参考文献

参考文献はアクセスが容易になるように、できる限りネットへのリンクをつけたものにしています（特に PubMed アブストラクトへリンクできるよう）

骨粗しょう症用のロモソズマブ

死の危険あり、使ってはいけない

ピロリ除菌は寿命短縮の可能性あり

胃がんは減っても、食道がんと脳卒中などが増える

目次

Editorial

ノーベル賞は日常診療に役立つか 3

New Products

骨粗しょう症用のロモソズマブ 4
死の危険あり、使ってはいけない

総　説

治療ガイドライン批判シリーズ（12）
ピロリ除菌は寿命短縮の可能性あり 8
胃がんは減っても、食道がんと脳卒中などが増える

害　反　応

タミフル 10 代異常行動死再び 12
タミフルもゾフルーザも死亡の危険大きい 13
プレガバリンとガバペンチン：死亡報告 14

連　載

新連載★本誌のこだわり用語 「物質」 7
薬剤師国家試験に挑戦しよう（問題） 15
コーヒー無礼区 15
患者用くすりの説明書 骨粗しょう症用の注射剤 16
医薬品危険性情報あれこれ 17
薬剤師国家試験に挑戦しよう（正解と解説） 19
みんなのやさしい生命倫理 87 「生老病死」（57） 20

Others

ISDB 総会報告（後編） 18
FORUM NSAIDs が血管を収縮させる作用とは？ 22
患者さんの選択肢が広がる／書評 23
次号予告／編集後記 24

表紙のことば：冬の夕方、ねぐらに帰る前に枯れ木に集まり、夕日を見つめるふくら雀たちに出会いました。

編集部から

今号の総説では、胃がんの原因の一つとされるピロリ菌の除菌治療に関する２つのガイドラインを取り上げています。日本ヘリコバクター学会のガイドラインは、除菌で胃がんによる死亡が減るため、早期に、中学生の段階から除菌を推奨しています。「早期発見、早期治療」の聞こえはいいですが、本当にその治療が有効なのか？ もし害があった場合は、早期に治療を行うことでより重大な害につながるのではないか？ ピロリ除菌ガイドライン批判の記事で是非ご確認ください。

新連載「本誌のこだわり用語」１回目は「物質」です。今号でも先月号に引き続きゾフルーザの害について取り上げていますが、臨床試験の段階で多くの問題が生じているゾフルーザは「医薬品」と呼んでよいものでしょうか？「物質」と呼ぶべきでは？などなど、本連載では、読者のみなさまに知ってほしい、こだわりの理由をお伝えします。

インフルエンザ流行シーズンに突入。昨年、多くの問題が懸念されていたにも関わらずゾフルーザは処方され、予想通りの害が報告されています。日本全国の医師の方々に是非お願いしたい。しっかりと害を確認していただき、処方は、抗ウイルス剤ではなく、「休養と水分補給」で。

2020 年の本誌表紙は樹木シリーズの予定ですが、最初に登場は、枯れ木にとまるふくら雀。樹木よりも雀のふくふくした可愛らしさに目がいきました。実はこれ、寒さ対策で一所懸命に空気を羽と羽の間にため込んでいるからだそうです。本誌も苦労を見せずに一所懸命、科学的根拠のある医薬品情報の提供に、今年も努めます。

p3　Editorial　ノーベル賞は日常診療に役立つか

Free https://www.npojip.org/chk_tip/87-Editorial.pdf

p4-7

New Products

骨粗しょう症用のロモソズマブ（商品名イベニティ）死の危険あり、使ってはいけない

中西剛明、浜　六郎

まとめ

●ロモソズマブ（商品名イベニティ）は、骨形成の抑制因子であるスクレロスチンという物質の働きを抑える作用により、骨を硬くして腰椎の骨折を減らす効能で 2019 年３月に販売が開始された注射剤で、著しく高価です。

●販売開始８か月後の調査で、因果関係の否定できない死亡が 16 人報告されました。すべて 70 歳以上で、うち 11 人が 80 歳以上でした。また、11 人の死因が心筋梗塞や脳梗塞など心血管系でした。

●脊椎の骨折を３人減らそうとすると心筋梗塞か脳卒中、あるいは何らかの原因で死亡が２人増える可能性のある薬剤です。総死亡も 1.4 倍に増える傾向がありました。

結論：使わないように。重大な心血管疾患などで死亡の危険がある。
特に 70 歳以上の高齢者には使用を禁止すべき。

キーワード： 骨粗しょう症、ロモソズマブ、イベニティ、スクレロスチン、脊椎骨折、心血管疾患、心筋梗塞、脳卒中、総死亡

参考文献（詳細版）
1）編集委員会、特集「骨粗しょう症」、骨粗しょう症は減っている　薬のチェックは命のチェック、2007 : No28 : 3-25.
2）浜六郎、骨粗しょう症につかうプラリア、薬のチェック TIP、2017: 17(No72): 76-80.
3）中西剛明、浜六郎、骨粗しょう症：テリパラチド注、薬のチェック TIP、2017 : 17（No74）：127-130.
4）イベニティ皮下注シリンジ 105mg「市販後調査」結果のお知らせ：アステラス製薬 2019.11
https://evenity.jp/member_only/evenity/aabp/images/basic-info/documents/EVN93001A01.pdf
5）ロモソズマブ審査報告書
6）ロモソズマブ申請資料概要
7）Cosman F, Crittenden DB, Adachi JD, Binkley N, Czerwinski E, Ferrari S, Hofbauer LC, Lau E, Lewiecki EM, Miyauchi A, Zerbini CA, Milmont CE, Chen L, Maddox J, Meisner PD, Libanati C, Grauer A　Romosozumab Treatment in Postmenopausal Women with Osteoporosis (FRAME 試験) .N Engl J Med 2016; 375:1532-1543　PMID:27641143
8）Saag KG, Petersen J, Brandi ML, Karaplis AC, Lorentzon M, Thomas T, Maddox J, Fan M, Meisner PD, Grauer A. Romosozumab or Alendronate for Fracture Prevention in Women with Osteoporosis　(ARCH 試験)　N Engl J Med. 2017 Oct 12;377(15):1417-1427　PMID: 27641143
9）Bolland MJ, Grey AB, Gamble GD, Reid IR. Effect of osteoporosis treatment on mortality: a meta-analysis. J Clin Endocrinol Metab. 2010 Mar;95(3):1174-81. PMID: 20080842
10）Krishna SM, Seto SW, Jose RJ, Li J, Morton SK, Biros E, Wang Y, Nsengiyumva V, Lindeman JH, Loots GG, Rush CM, Craig JM, Golledge J.　Wnt Signaling Pathway Inhibitor Sclerostin Inhibits Angiotensin II-Induced Aortic Aneurysm and Atherosclerosis. Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2017;37(3):553-566. PMID:28062506
11）Wehmeyer C, Frank S, Beckmann D, Böttcher M, Cromme C, König U, Fennen M, Held A, Paruzel P, Hartmann C, Stratis A, Korb-Pap A, Kamradt T, Kramer I, van den Berg W, Kneissel M, Pap T, Dankbar B.　Sclerostin inhibition promotes TNF-dependent inflammatory joint destruction.
Sci Transl Med. 2016;8(330):330ra35. PMID:27089204
12）Bonewald LF. The Role of the Osteocyte in Bone and Nonbone Disease. Endocrinol Metab Clin North Am. 2017;46(1):1-18. PMID: 28131126
13）森亘ら監訳、ロビンス基礎病理学、第 7 版、p25-26、廣川書店、2004
14）FDA News Release FDA approves new treatment for osteoporosis in postmenopausal women at high risk of fracture April 09, 2019 https://www.fda.gov/news-events/press-announcements/fda-approves-new-treatment-osteoporosis-postmenopausal-women-high-risk-fracture

p7

新連載　本誌のこだわり用語　１回目「物質」　**Free**

本誌のこだわり用語 ①

物質

本誌発行責任者の浜医師の著書「薬害はなぜなくならないか」（1996 年、日本評論社刊）第５章で『試験中は「薬」ではなく「物」である』という項目を設けて解説しているように、以前からこだわって用いています。1996 年６月に当時の菅直人厚生大臣に提出した「医薬品の有用性評価・薬害防止・高薬価の是正のための提案」の４．でも明確に示しました。その一部を次に引用します。

――治験薬あるいは試験薬という呼び方を廃止し、「治験物質」「試験物質」あるいは、「治験物」「試験物」あるいは単に「物質」「化学物質」と呼ぶ。これから人での臨床試験を実施しようとしている物質は、まだ、医薬品としての有効性も安全性も評価が未確定の物質である。その呼び方として治験「薬」とか、試験「薬」を用いることは、あたかも、その物質がすでに医薬品として有用であるとの評価を受けたもののように誤解される可能性が高い。（略）GCP-ICH（註１）の英文案では、これは investigational product であり、決して drug（註２）という語は使用していない。（以下、略）」

英語での New Products が日本語に訳されると「新薬」となってしまうのは意図的でしょう。本誌は基本的には「〇〇薬」を用いず、解熱剤、鎮痛剤、抗生物質などとしています。洗剤などと同じく、化学物質（chemical products）であることを示すためです。

註１：1996 年に日米欧の医薬品規制調和国際会議（ICH）が定めた臨床試験（日本で言う治験も含む）を実施するための基準（GCP: Good Clinical Practice）。

註２：WHO の必須薬の 1977 年初版時は Essential Drugs だったが 2003 年以降、Essential Medicines となった。

※今回から６回にわたって薬のチェックが独自に用いている医学・薬学関連の用語を紹介します。なぜ、そうなのか、読者も納得し、他でも使っていただけると幸いです。ご意見のある方は、遠慮なく編集室までお寄せください。

総説

2020 年の年間テーマ：治療ガイドライン批判シリーズ（12）

ピロリ除菌は寿命短縮の可能性あり

胃がんは減っても、食道がんと脳卒中などが増える

薬のチェック編集委員会

まとめ

●ヘリコバクター・ピロリ（略して H. ピロリ、またはピロリ菌）は、胃の中に存在し、胃潰瘍・十二指腸潰瘍や胃がんとの関係が明らかになってきました。それとともに、H．ピロリの保菌者を対象に抗生物質とプロトンポンプ阻害剤（PPI）を組み合わせて除菌する治療「ピロリ除菌」が開始されました。

●ピロリ除菌のガイドラインは２種類あります。一つは日本ヘリコバクター学会が 2016 年に発表した中学生以上の青少年と成人向けのガイドライン（成人 GL と略）、もう一つは日本小児栄養消化器肝臓学会による小児向けのガイドライン（2018 年、小児 GL と略）です。

●成人 GL では、「中学生は義務教育であるため…高い受診率を期待できるので」、検査して「感染が確診された場合は…できるだけ早期の除菌治療が望ましい」と推奨しています。

●しかし、小児 GL では、海外の GL を参考に、無症状の小児を検査して陽性ならピロリ除菌をするいわゆる「検査して治療」は「行わないことを提案する」としています。

●健康無症状のピロリ陽性の患者を対象に４年以上追跡したプラセボ対照ランダム化比較試験（RCT）６件を総合解析したコクラン・レビューの結果では、胃がんの発生は有意に約３分の２に減少しました。しかし、死亡全体を減らすことはできませんでした。最も長期間追跡した最大規模の RCT では、統計学的には有意とはいえないまでも、むしろ死亡率が 14%増える可能性が示唆されました。

●情報を総合すると、ピロリ除菌で胃がんを減らしても、抗生物質と PPI のために腸内の細菌叢が大きく変化し、脳卒中など、他の病気になるためと考えられます。

結論：無症状の人のピロリ除菌は行わないことを強く推奨する。

キーワード：H.ピロリ、ピロリ菌、プロトンポンプ阻害剤、無症状、胃がん、胃食道逆流症、脳卒中、日本ヘリコバクター学会

参考文献

1）谷田憲俊、胃薬、胃薬ってなんのため？「薬のチェックは命のチェック」2004：4（14)：3-15.

2）日本ヘリコバクター学会ガイドライン作成委員会、H.pylori 感染の診断と治療のガイドライン 2016 年版、先端医学社 2016

3）薬のチェック編集委員会、H.薬のピロリ除菌で寿命短縮の可能性、薬のチェック TIP　2015：15(58)：37-39.

4）谷田憲俊、中学生の予防的ピロリ菌除菌の根拠は？　薬のチェック TIP　2017：17(72)：94-96

5）日本小児栄養消化器肝臓学会、小児期ヘリコバクター・ピロリ感染症の診療と管理ガイドライン 2018（改訂２版）、https://minds.jcqhc.or.jp/docs/gl_pdf/G0001096/4/Childhood_Helicobacter_pylori_infection.pdf

6）Jones NL, Koletzko S, et al ESPGHAN, NASPGHAN Joint ESPGHAN/NASPGHAN Guidelines for the Management of Helicobacter pylori in Children and Adolescents (Update 2016). J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2017 ;64(6):991-1003. PMID: 28541262

7）Malfertheiner P et al European Helicobacter and Microbiota Study Group and Consensus panel. Management of Helicobacter pylori infection-the Maastricht V/Florence Consensus Report. Gut. 2017; 66 (1): 6-30. PMID: 27707777

8）国立がん研究センター、がん情報サービス、最新がん統計 https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

9）国立がん研究センター、がん情報サービス、年次推移 https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/annual.html

10）上村直実、ヘリコバクター・ピロリ除菌の保険適用 による胃がん減少効果の検証について

https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000167150.pdf
11) Ueda M, Kikuchi S, Kasugai T, et al. Helicobacter pylori risk associated with childhood home environment. Cancer Sci 2003: 94: 914-918. PMID:14556666
12) ブレイザーMJ.（山本太郎訳）失われてゆく、我々の内なる細菌、みすず書房、2015
13) Broussard CS, Goodman KJ, Phillips CV, Smith MA, Fischbach LA, Day RS, Aragaki CC. Antibiotics taken for other illnesses and spontaneous clearance of Helicobacter pylori infection in children. Pharmacoepidemiol Drug Saf. 2009;18(8):722-9. PMID:19455592
14) Ford AC, Forman D, Hunt R, Yuan Y, Moayyedi P. **Helicobacter pylori eradication** for the prevention of **gastric** neoplasia. Cochrane Database Syst Rev. 2015 Jul 22;(7):CD005583.PMID:26198377
15) Ford AC, Forman D, Hunt RH, Yuan Y, Moayyedi P.**Helicobacter pylori eradication** therapy to prevent **gastric cancer** in healthy asymptomatic infected individuals: systematic review and **meta-analysis** of randomised controlled trials. BMJ. 2014 May 20;348:g3174. PMID:24846275
16) Ma JL, Zhang L, Brown LM, Li JY, Shen L, Pan KF, Liu WD, Hu Y, Han ZX, Crystal-Mansour S, Pee D, Blot WJ, Fraumeni JF Jr, You WC, Gail MH. Fifteen-year effects of **Helicobacter pylori**, garlic, and vitamin treatments on **gastric cancer** incidence and mortality. J Natl **Cancer** Inst. 2012 Mar 21;104(6):488-92. doi: 10.1093/jnci/djs003. Epub 2012 Jan 23. PMID:22271764
17) 同上（Ma JL　et al. Supplementary data https://academic.oup.com/jnci/article/104/6/488/937579#supplementary-data
18) Xie T, Cui X, Zheng H, Chen D, He L, Jiang B. **Meta-analysis**: eradication of **Helicobacter pylori infection** is associated with the development of endoscopic **gastroesophageal reflux disease**. Eur J Gastroenterol Hepatol. 2013 Oct;25(10):1195-205. PMID: 23839160
19) Zhuo X, Zhang Y, Wang Y, Zhuo W, Zhu Y, Zhang X. Helicobacter pylori infection and oesophageal cancer risk: association studies via evidence-based meta-analyses. Clin Oncol (R Coll Radiol). 2008 Dec;20(10):757-62. PMID: 18793831
20) Xie FJ, Zhang YP, Zheng QQ, Jin HC, Wang FL, Chen M, Shao L, Zou DH, Yu XM, Mao WM. Helicobacter pylori infection and esophageal cancer risk: an updated meta-analysis. World J Gastroenterol. 2013 Sep 28;19(36):6098-107. PMID:24106412
21) Sun S, Cui Z, Zhou M, Li R, Li H, Zhang S, Ba Y, Cheng G. Proton pump inhibitor monotherapy and the risk of cardiovascular events in patients with gastro-esophageal reflux disease: a meta-analysis. Neurogastroenterol Motil. 2017;29(2). doi: 10.1111/nmo.12926. PMID:27577963
22) Li S, Liu F, Chen C, Zhu W, Ma J, Hu J, Xu J, Hong K. Real-World Relationship Between Proton Pump Inhibitors and Cerebro-Cardiovascular Outcomes Independent of Clopidogrel. Int Heart J. 2019; 60(4): 910-918. PMID:31308328
23) Malhotra K, Katsanos AH, Bilal M, Ishfaq MF, Goyal N, Tsivgoulis G. Cerebrovascular Outcomes With Proton Pump Inhibitors and Thienopyridines: A Systematic Review and Meta-Analysis. Stroke. 2018;49(2):312-318. PMID: 29339434
24) Chien LN, Huang YJ, Shao YH, Chang CJ, Chuang MT, Chiou HY, Yen Y.**Proton pump inhibitors** and risk of **periampullary** cancers--A nested case-control study. Int J **Cancer**. 2016 ;138(6):1401-9. PMID: 26488896
25) Shi D, Zhou Z, Dai Y, Pan X, Cao Q Proton Pump Inhibitor Therapy and Hepatic Encephalopathy Risk in Cirrhotic Patients: A Systematic Review with Meta-analysis.Clin Drug Investig. 2019;39(9):847-856. PMID:31183628
26) Lin L, Hou L, Deng Y, Zhao T, Wang B, Sun C
Acid suppression therapy and its association with spontaneous bacterial peritonitis incidence:A systemic review and meta-analysis. Hepatol Res. 2019 Oct 30. doi: 10.1111/hepr.13447.PMID:31667938
27) Cunningham R, Dale B, Undy B, Gaunt N. Proton pump inhibitors as a risk factor for Clostridium difficile diarrhoea. J Hosp Infect. 2003;54(3):243-5
28) Dial S, Alrasadi K, Manoukian C et al. Risk of Clostridium difficile diarrhea among hospital inpatients prescribed proton pump inhibitors: cohort and case-control studies. CMAJ. 2004;171(1):33-8.
29) 浜六郎、PPI による肺炎、薬のチェック TIP. 2017: 17(73):114-115
30) 浜六郎、PPIで肺炎は増えなかったとする論文の問題点、薬のチェックTIP.2017：17(74)：131-132
31) 編集委員会、認知症疾患診療ガイドラインは薬物偏重、薬のチェック、2019：19（82）：34-39
32) Esan OB, Pearce M, van Hecke O, Roberts N, Collins DRJ, Violato M, McCarthy N, Perera R, Fanshawe TR. Factors Associated with Sequelae of Campylobacter and Non-typhoidal Salmonella Infections: A Systematic Review. EBioMedicine. 2017;15:100-111. PMID: 27965105

p12

害反応

タミフル 10 代異常行動後の死亡 再び

原則禁止を解禁したことが影響している

浜　六郎

キーワード：タミフル、オセルタミビル、10 代原則禁忌の解除、異常行動、死亡、自殺、安全対策調査会

p13

害反応

タミフルもゾフルーザも死亡の危険度が大きい

浜　六郎

キーワード：タミフル、オセルタミビル、ゾフルーザ、バロキサビル、突然死、感染症死、下痢、下血、ノイラミニダーゼ阻害、エンドヌクレアーゼ阻害

参考文献（p12「タミフル異常行動死再び」と p13「タミフルもゾフルーザも死亡の危険度が大きい」共通）

1）薬事・食品衛生審議会 医薬品安全対策調査会
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-yakuji_127869.html 2018.5.16 安全対策調査会資料
2）同上、2018.7.13 安全対策調査会資料
3）同上、2019.10.29 安全対策調査会資料
4）読売新聞、インフル感染異常行動 42 人、2019.10.30 報道
5）中國新聞、中学生が転落死、2019.12.11 報道
6）浜　六郎、タミフル：10 代解禁で異常行動死が増加、薬のチェック速報版 No180(2019.11.15)
https://www.npojip.org/sokuho/191115.html
7）Hama R, Bennet C. The mechanisms of sudden-onset type adverse reactions to oseltamivir. Acta Neurol Scand. 2017;135(2):148-160. (Free access)
8）中西剛明ら、抗インフルエンザ剤ゾフルーザによる出血、薬のチェック　2019：19（83）：56-57
9）浜六郎、抗インフルエンザ剤ゾフルーザの害：耐性・肺炎・突然死・出血、薬のチェック　2019：19（86）：131
10）浜六郎、薬のチェック速報版 No181(2019.12.15)
11）Hama R. The mechanisms of delayed-onset type adverse reactions to oseltamivir. Infect Dis (Lond). 2016;48(9):651-60. (Free access)
12）古市安広、日本発、キャップ依存型インフル治療薬ゾフルーザの発見　RNA Japan 会報
https://www.rnaj.org/newsletters/item/614-furuichi-12
13）清成信一,5th Endonuclease　バイオミディア 2013　No9
https://www.sbj.or.jp/wp-content/uploads/file/sbj/9109/9109_biomedia_4.pdf
14）山岸利暢ら．インフルエンザ感染後の二次性細菌性肺炎の検討、第 47 回日本救急医学会総会・学術集会（2019.10.2～4）発表スライドより　（日経メディカル News に一部報道あり）
https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/hotnews/int/201910/562589.html?n_cid=nbpnmo_mled_html-new-arrivals

害反応

プレガバリンとガバペンチン：死亡報告

Prescrire International Vol.28, No.203, p.99 を翻訳、註釈は本誌

キーワード：プレガバリン、ガバペンチン、リリカ、ガバペン、死亡、疼痛、中毒、離脱症状、乱用

2017 年の終わりに、英国医薬品・医療製品規制庁（MHRA）は、ガンマアミノ酪酸（GABA、註 1）の類似体であるプレガバリン（訳註：日本での商品名リリカ。2010 年より販売）に関連した死亡の報告が増えていると発表した。2012 年に 4 人の死亡が報告され、2016 年には 111 人の死者が出た。プレガバリンに極めて似

参考文献

1) “Gabapentin and risk of severe respiratory depression” Drug Ther Bull 2018; 56 (1): 3-4
2) Lacobucci G “UK government to reclassify pregabalin and gabapentin after rise in deaths” BMJ2017; 358: j4441 doi: 10.1136/bmj.j4441.
3) Office for national statistics “Death related to drug poisoning in England and Wales: 2016 registrations” 2 August 2017: 34 pages
4) ANSM “RCP-Neurontin 400mg” 22 January 2018: 11 pages
5) European Commission “SPC-Lyrica” 1st August 2018:111 pages
6) Prescrire Editorial Staff “Gabapentin and pregbalin: abuse and addiction” Prescrire Int 2012; 21 (128): 152-154

薬剤師国家試験に挑戦しよう（問題）　大麻に関連した問題　p15
薬剤師国家試験に挑戦しよう（正解と解説）　p19

シャーロックはアスペルガー？

現代のロンドンを舞台にした BBC の『SHERLOCK』（英国での放映は 2010 ～ 2017 年）を英語版と日本語吹き替えとで観ている。先に英語版を観て、日本語でどうなるのかを楽しんでもいる。レストレード警部がジョンに向かって、” I suppose he likes having all the same faces back together. Appeals to his…His…… Asperger's? " と言う場面があった。身近にアスペルガー症候群（Asperger）の人がいるので英語の雰囲気

患者用くすりの説明書

骨折の危険性の高い骨粗しょう症に対する注射剤

本誌の評価：危険、不要、使わないように

一般名（商品名）：ロモソズマブ（イベニティ）
用法：成人には、ロモソズマブ 210mg を 1 か月に 1 回、12 か月間、皮下に注射する。

価格：105mg シリンジ 24,720 円、成人の通常量の 210mg だと 49,440 円

p17

医薬品安全危険性情報 あれこれ

国立医薬品食品衛生研究所（日本）が発行する「医薬品安全性情報（海外規制機関）」から紹介（趣旨を損なわない程度に原文の表現を一部変更）。コメント・註釈は本誌。

【WHO】
抗パーキンソン剤セレギリンで低血糖
【WHO】
抗ヒスタミン剤デスロラタジンでドライアイ
【カナダ Health Canada】
モダフィニル:先天性異常
【WHO】
プロトンポンプ阻害剤と女性化乳房

p18-19

ISDB General Assembly 2019

Hosted by the Prescrire in Paris

前号で 2019 年 10 月 10 日から 12 日の 3 日間、パリで開催された ISDB 総会の前半を報告しました。今号では後半と、本誌が注目したポスター発表（註 1）について紹介します。

p20-21

みんなのやさしい生命倫理 87

生老病死 (57)

谷田憲俊

新生児のみならず高齢者や臨終が近い人も対象になる「医療の無益性」などをみてきました。今回は、関連する「最善の利益」について事例と共にみてみます。

「最善の利益」とは
治癒的医療が「最善の利益」となる場合
「延命措置中止が最善の医療」と認められた例
欧州人権裁判所まで至った事例
　　表：アルフィー・エバンス事例

おわりに

結局、「最善の利益」という言葉はなるべく使わずに、「良質の医療」について検討するのが適切です。もし使うなら、「誰の何のための最善の利益か」を関係者で話し合い、「医療の無益性」においてと同様に「合理的な医学的判断」「根拠に基づいた医療（EBM）」、そして共同意思決定の取り組みを大切にするよう勧められます。ただ、この共同意思決定の取り組みが端から通用しない事態が存在します。それが「信仰に基づく輸血拒否」の場合です。次回は、その点についてみてみましょう。

p22

FORUM

Q NSAIDs が血管を収縮させる作用とは？

NSAIDs（非ステロイド抗炎症剤）について調べたいことがあり、本誌のバックナンバーをチェックしました。「薬のチェックは命のチェック」56 号の 40 頁左側の下の方に、「NSAIDs は血管を収縮させます。」と書いてあります。これはどういう作用機序によるものなのでしょうか？

A 全身のプロスタグランジンの合成を抑制する作用がある

非ステロイド性抗炎症剤（NSAIDs）の主な薬理作用は、質問者もお考えのように①プロスタグランジン（prostaglandin: 以下、PG）の合成を抑制する作用です。PG の合成に必要なシクロオキシゲナーゼという酵素を阻害するためです（図）。

患者さんの選択肢が広がる

86 号のラグノスＮＦ経口ゼリーについて、読

書評

安楽死を遂げた日本人

宮下洋一著／小学館／Ａ５版／ 1600 円（+ 税）

次号予告

総説で
抗凝固療法
（血栓予防）
を予定しています。

編集後記

★経済協力開発機構（OECD）が 15 歳を対象に行う学習到達度調査「PISA」の 2018 年時の結果が出た。その PISA で、読解力について測定するための出題で今回初めて実施された「文章の信ぴょう性を評価する能力を測定する問題」の正答率が、日本の高校１年生では特に低い、という部分に興味を持った★特徴的な出題のひとつは、商品の販売元とオンライン雑誌が、商品についてネット上で発信した文章を比較する、という内容★この問題を医薬品に置き換えてみると、「製薬企業と週刊誌が、医薬品についてネット上でそれぞれ発信した文章を比較する」となるわけで、薬の消費者がこれらの情報をどのように読み解くのか、ということになる★ PISA の結果は、試験に参加した年代だけを反映したものではないかもしれない。この国で暮らす一人一人が騙されないために読解力をつけることが求められている、と PISA の結果をみて、思う。（な）